

災害が起こったら①

起きてからではもう遅い。備えるのなら 今!!

その時、家や家具が凶器にならないように。平時しかできない備えです。

相談して
できること

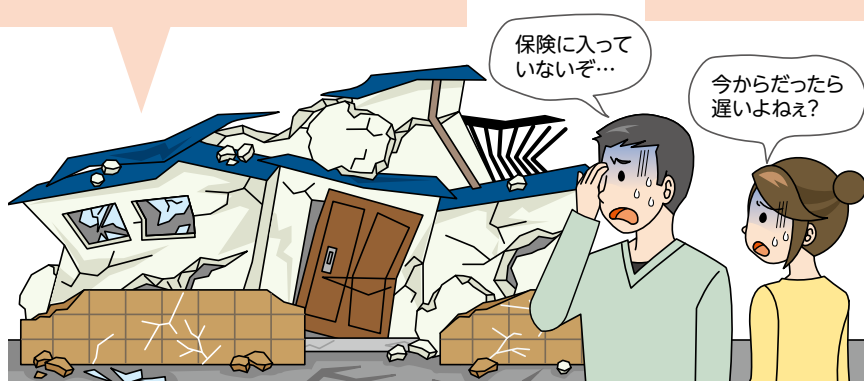
一人で
できること

ものを減らす！ 固定する！

部屋の中を見てください。置いてあるだけの物は、重い物でも水平方向に飛びます。固定していない家具は部屋の中を移動したり倒れたりします。閉じた戸棚の中のものも飛び出します。

保険に入る！

命が助かって家財を失ってしまうと、長く苦労します。生活の再建を支える地震保険付きの火災保険に入りましょう。



工事で
できること

耐震診断&耐震補強する！

建築基準法が改定された1981年6月より前に建てられた建物は大きな揺れに耐えられない可能性が高いです。耐震診断して、必要があれば耐震化の工事をしましょう。まずは無料の相談窓口へ。

無理せず
少しずつ
できることから
順番に

警戒レベルを知っておこう

水害・土砂災害について、市町村が出す避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報が5段階に整理されました。

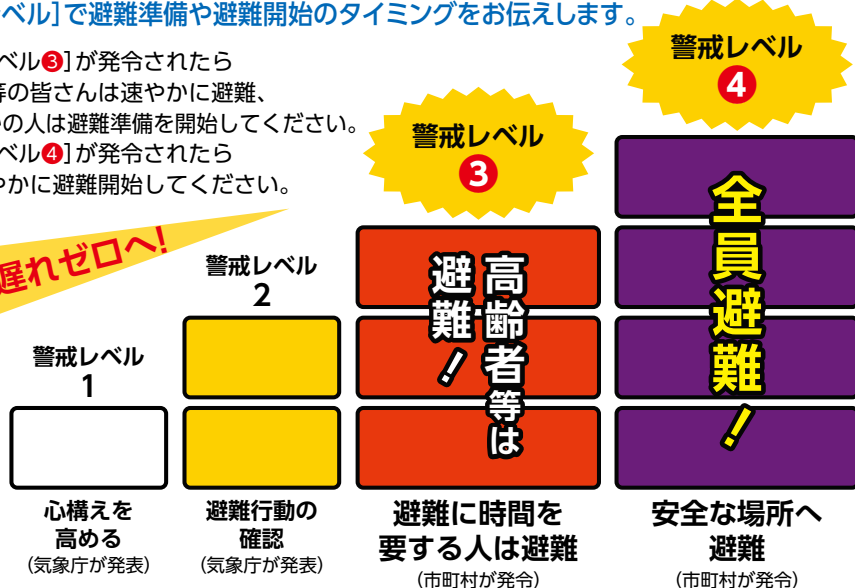
防災情報はいろいろあるけど いつ避難すればいいの？

警戒レベル④で全員避難！！

[警戒レベル]で避難準備や避難開始のタイミングをお伝えします。

[警戒レベル③]が発令されたら
高齢者等は速やかに避難、
そのほかの人は避難準備を開始してください。
[警戒レベル④]が発令されたら
全員速やかに避難開始してください。

逃げ遅れゼロへ!



詳しく知りたい方は

内閣府 防災情報のページ

内閣府 避難勧告

検索

http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/index.html



スマホ用二次元コード▶

- [警戒レベル⑤] (市町村が発令) はすでに災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。
- [警戒レベル③] や [警戒レベル④] で、地域の皆さんで声をかけあって、安全・確実に避難しましょう。

災害が起こったら②

あなたがとるべき避難行動は

いざというとき、あなたの命を守ることができるのは、「あなた自身」です。

今後、頻発するかもしれない台風・豪雨災害に備えて、ハザードマップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？ **必ず取組みましょう**

ハザードマップ*で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市区町村からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として*、自宅の外に避難が必要です。

例外

※浸水の危険があっても、
①洪水により家屋が倒壊又は崩落してしまうおそれの高い区域の外側である
②浸水する深さよりも高いところにいる
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。
※土砂災害の危険があっても、十分堅牢なマンション等の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

警戒レベル **3** が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル **3** が出たら、市区町村が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

いいえ

警戒レベル **4** が出たら、**安全な親戚や知人宅に避難**しましょう(日頃から相談しておきましょう)

警戒レベル **4** が出たら、市区町村が指定している**指定緊急避難場所**に避難しましょう

災害が起こったら③

⚠️ 雨風が強まってきたらどうするか？

大雨情報をキャッチしたら、わが家でこんな安全対策を

- ①ラジオやテレビなどで、気象情報にはくれぐれも注意する。
- ②自治体の広報をよく聞いておく。
- ③停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- ④非常持出品を準備しておく。
- ⑤外出からは早く帰宅し、勤務先の家族と連絡を取り、非常時に備える。
- ⑥浸水に備えて、家財道具は、安全な場所へ。
- ⑦飲料水や食料を確保しておく。
- ⑧危険な土地では、いつでも避難できるよう準備する。

早めの避難に
勝る防災なし!



危険を感じたらすぐ避難しよう

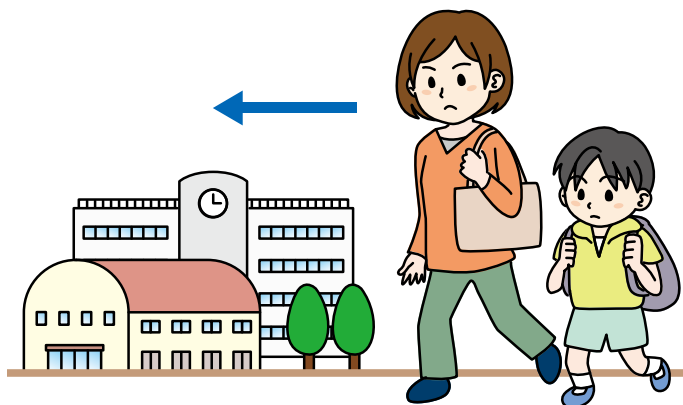
急激な降雨のように、突発的な異常気象の場合には、自治体からの避難情報が間に合わないケースもあります。身の危険を感じたら、自治体からの避難情報を待つことなく、安全な場所や避難所などへ自主的に避難しましょう。



命を守る最低限の行動とは

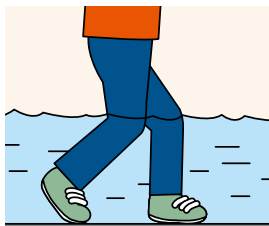
危険な状況の中での避難はできるだけ避け、安全の確保を第一に考えます。

屋外に出て指定された避難所などへ移動(水平避難)することが危険と感じる場合や、その余裕がない場合は、自宅や隣接建物の2階以上へ避難(垂直避難)することが安全な場合もあります。



避難するときのポイント

● 洪水のときはこうして避難 ～ 洪水の中を歩くときの注意 ～



歩ける深さは、男性で約70cm、女性で約50cm。水深が腰まであるようなら無理は禁物。高所で救助を待ちましょう。



水面下にはどんな危険が潜んでいるかわからないので、長い棒を杖代わりにして安全を確認しながら歩きます。



裸足、長靴は禁物。ひもで締められる運動靴が良いでしょう。



はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。特に子どもから目を離さないように!



お年寄りや身体の不自由な人などは背負い、幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保して避難します。

災害が起こったら④

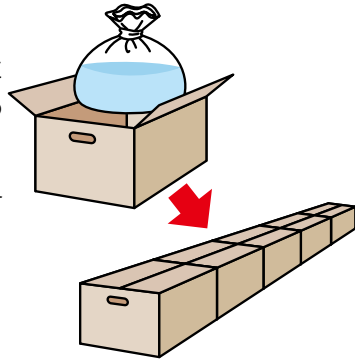
⚠️ もしものときのために対策方法を覚えておきましょう。

水害時の土のうなどの活用方法

小規模な水災で水深の浅い初期段階ならば、身近なものを使った対策でも浸水を防ぐことができます。ただし、これらはあくまで簡易的なもので完全な防水はできません。危険を感じる前に早めの避難を心がけましょう。

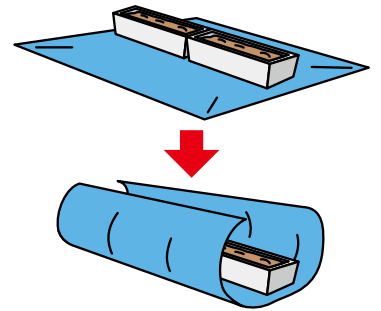
ごみ袋と段ボール箱を利用する防水対策

ごみ袋を二重、三重にして、袋に水を半分程度まで入れて、きつく縛り、簡易水のうを作ります。簡易水のうを段ボール箱に入れて、敷き詰めて使用します。



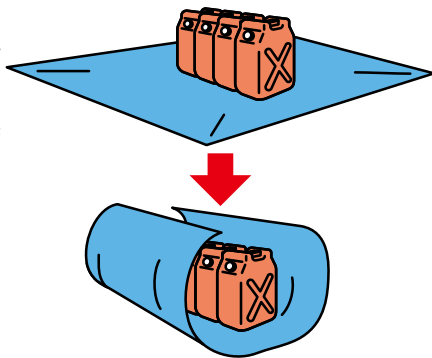
プランターとビニールシートを利用する防水対策

ポリタンクの代わりに土の入ったプランター（植木鉢）を使用します。



ポリタンクとビニールシートを利用する防水対策

ポリタンクなどに水を入れ、ブルーシートやレジャーシートなどの上に並べて置き、シートで巻き込んで使用します。



止水板やラバーゴムなどを利用する防水対策

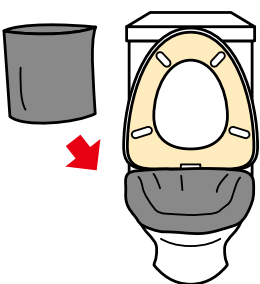
出入り口などに長めの板やラバーゴムなどと重石になるもの（土のうなど）を使用します。



緊急トイレ対策

仮設トイレの整備や下水道の復旧を待つ間、非常用あるいは携帯用トイレの用意をしておくことも必要です。

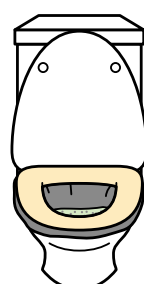
●ポリ袋で急場をしのご



① 便座を上げて、ポリ袋を便器にかぶせる



② 市販の凝固剤+殺菌剤か、なければ猫砂を入れる



③ 便座を下げて用を足す



④ ポリ袋を取り出し、しっかりと縛る



⑤ 所定の場所に捨てる